2019 年 10 月 29 日
株式会社ベネッセスタイルケア
ベネッセ シニア・介護研究所

ベネッセ シニア・介護研究所と介護付きホームここち稲毛が全国介護付きホーム研究サミットにてグランプリを受賞

株式会社ベネッセスタイルケアの社内シンクタンクであるベネッセ シニア・介護研究所は、ここち稲毛（介護付きホーム・千葉県千葉市稲毛区）とともに 2019 年 10 月 17 日に開催された「全国介護付きホーム研究サミット 第７回介護付きホーム事例研究発表全国大会」（主催：一般社団法人 全国介護付きホーム協会）において、「排泄ケアメソッド」について発表を行い、グランプリを受賞いたしました。

発表の概要は以下の通りです。

●発表演題：全社で取り組んだ「夜間良眠」の排泄ケア
－発想の転換が生み出すご入居者とスタッフの活気－
●発表者　：福田亮子（ベネッセ シニア・介護研究所）山本明　堀部純平（ここち稲毛）
●発表内容：

従来の夜間の排泄ケアでは巡視のたびにパッド交換を行うことが多く、ご入居者の安眠を妨げたり、スタッフの負担が大きいことが課題であった。そこで、ご入居者の夜間の睡眠の確保と質の向上を目指し、アセスメントに基づいてパッドの種類と交換回数の見直し（低減）を行い、その効果を、ご入居者の睡眠状態および意欲や ADL、ならびにスタッフの意識の側面から検証した。当社では、この取り組みを「排泄ケアメソッド」と呼んでいる。

全社で 1,100 名を超えるご入居者を対象にこの取り組みを行っているが、2019 年 5 月 17 日時点で 535 名のご入居者（平均年齢 89.2 歳、平均要介護度 4.03）の事前評価と 6 ヶ月評価の結果を比較した結果、72.6%で睡眠状態が改善しただけでなく、40.3%で意欲が向上し、22.7%で ADL も向上した。ほぼ寝たきりで経管栄養を摂っていた方が、夜間の睡眠時間の増加により日中の覚醒状態が大きく改善し、経口摂取が可能となっただけでなく、趣味の活動に参加できるようになったケースもあった。

ただし、このような「業務の引き算」という発想の転換は容易ではなく、ここち稲毛も苦労しながら成功にたどり着いたホームである。以前は介助に追われることも多く、アクティビティの停滞などさまざまな問題を抱えており、「排泄ケアメソッド」の取り組みにも着手できていなかった。しかし、複数のホームにまたがって活動する専門性の高いスタッフチームの力を借り、取り組む意義を理解し、自らの成功イメージを持ち、具体的な進め方のアドバイスを受けて 13 名に対する取り組みを開始してからは、昼間の覚醒状態の改善やそれに伴うアクティビティの活性化、さらには転倒が大幅に減るなど、ご入居者に劇的な変化が見られた。スタッフも、夜間の排泄ケアの見直しによってできた時間を、ご入居者やご家族との時間、スタッフ同士のコミュニケーションの時間に使うことで、仕事の意識や意欲、そして質が大きく向上した。

この「排泄ケアメソッド」の取り組みを社内でさらに促進するため、各ホームが経験した困りごとと、それを解決するためのコツ・ポイントをまとめた「排泄ケアメソッドスタートガイド」を作成し、横展開している。今後も全社で、「究極の引き算」によりご入居者、ご家族、スタッフ、みんなが活気あるホーム作りを目指していく。

●評価いただいたポイント：

介護業界においては従来、人手をかけるほど丁寧であるとする考え方が主流であり、今回の取り組みのように業務の「引き算」をすることに抵抗を感じる人も多かったのが現状です。今回の発表により「排泄ケアメソッド」がご入居者とスタッフの元気につながることが示されたことで、「引き算」の勇気をもらった、自社でも取り入れてみたい、という声を多くいただきました。また、「排泄ケアメソッド」の公開への期待も寄せられました。こちらについては、今後検討してまいります。

【発表の様子】

本内容に関するお問い合わせ

ベネッセ シニア・介護研究所 福田

03-6836-1075